

情報不足

大学入試が、センター試験から大学入学共通テストへ変更されました。高校入試は、来年度から裁量問題が廃止され、試験時間が50分に延長、60点満点から100点満点に変更になります。変更していく当初の理由は、大学入試も高校入試も基本的な考え方は同じで、思考力・判断力・表現力などについてもバランスよく出題する方針であるということです。

さて、林修さんが負ける人の共通点の1つに「情報不足」があるとテレビで言っていたことを思い出しました。受験に関しても同じことが言えます。塾生の皆様が受験情報に乏しくなり、対策を立てることが難しくならないよう、受験情報の収集と提供に努めていきたいと改めて思いました。

ちなみに林修さんが負ける人の共通点に挙げていたことの残り2つは「慢心と思い込み」でした。

釧路愛国教室 瀬賀 伸貴 Tel 0154-32-7870
〒085-0051 釧路市光陽町14-8

桜

日本においてサクラは、特別な意味をもつ花です。果実（サクランボ）を食用とするほか、花や葉の塩漬けも食品などに利用されますが、特に平安時代の国風文化の影響以降に、桜は観賞（花見）で花の代名詞のような特別な位置を占めるようになりました。

当初は鑑賞の対象とされる代表的な品種は野生に自生するヤマザクラでした。これに加えて、花卉の数や色、花の付け方などの観点から見栄えが良かったり突然変異の珍しい特徴を持つ野生の個体を何世代にもわたって選抜育種し、優れた個体を接ぎ木などの方法で増殖させることで様々な栽培品種が開発されて、花見に利用されました。既に平安時代には八重桜が接ぎ木によって増殖されていたらしいことや「しだれ桜」や「糸桜」などが存在したことが当時の文献に記録されています。

釧路春採SC教室 安田 光則 Tel 0154-65-6458
〒085-0813 釧路市春採7-1-48

1年が経過しました。

ご通塾くださる生徒・保護者の皆様に励まされ、ここまで来ることができました。ありがとうございます。

令和2年度は、学校の授業進度の緩急や行事関連の変更など、生徒の皆様にとって苦難の多い1年間だったことと思います。当教室でも臨時休講等の対応を実施したこともあり、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。しかし同時に、明光にはそれまでなかったオンライン授業というスタイルや、当別教室としては新しい、中高生向けの映像授業・プログラミング授業などを取り入れながら、伝統の個別指導と両立していくという革新的な1年間にもなりました。

これから1年は、新しいものと伝統とを融合し、よりよいサービスが提供できるようにしていきます。至らない点もあるかとは存じますが、今後とも、よろしくお願いたします。

当別教室 平山 由香利 Tel 0133-23-2228
〒061-0233 石狩郡当別町白樺町163-38 1F

ブルーピリオド

去年たまたま紅白歌合戦でYOASOBIのパフォーマンスを観てからすっかり気に入ってしまい、何曲か聴いてみたところ「群青」という曲に魅了されました。YOASOBIは小説を曲にするユニットですが、「群青」は小説ではなく「ブルーピリオド」というマンガを題材としています。この曲の題材である作品にも興味を惹かれた私は、結局「ブルーピリオド」にも嵌ってしまいました(度々マンガについて書いてしまうのは「塾関係者」としてどうかと思ったりしますが…)。

作中のセリフである「頑張れない子は好きなことがない子でしたよ」にチクッと胸の痛みを感じ、「好きなことをする努力家は、最強なんですよ!」に、強く背中を押された感じがしています。

やはり日本のマンガは侮れないです。
釧路鳥取教室 藤井 聡史 Tel 0154-65-9933
〒084-0907 釧路市鳥取北10-5-22

理解って何だろう？

高校時代の化学の先生が言っていた言葉が忘れられません。「君たちは私の授業を聞いて、分かった気になる。ところが家に帰っていき問題を解こうとすると、ちっとも分かっていなかったことに気がつく。」当時は「なめてやがるな」と思ったものですが、実際に家に帰って問題を解こうとすると、なるほど確かに理解していないようでした。しかし問題を解いていくうちにだんだんと理解していきました。そもそも、理解とはなんでしょうか？誰かの話を聞いて、分かったつもりになることを、我々は理解と呼んでいるのかもしれませんが、しかしそんなのは実際にはちっとも理解とは程遠いものです。「理解する」とは問題を解けるようになることや、誰かに説明できるようになること、つまり、情報を受ける側から、情報を活用する側になることなのだと思います。

中標津教室 堀 正太 Tel 0153-74-0900
〒086-1007 標津郡中標津町東七条南7-8 2F

キヤーの法則

毛虫や蜘蛛が家に出て、キヤー！ならまだ分かりませんが、蠅や蚊に対して、キヤー！おいおいおい、蠅や蚊ごときで、なんでそんなに驚くんだ？と、その声を耳にしたこちらの方がビックリするわけですが(笑)、親が虫嫌いで、虫を見てキヤー！とパニック状態に陥ると、子どもはその様子を見て、「大の大人がこんなに驚くのだから、これはつまり大変なことなのだろう…」と刷り込まれてしまう。その結果、キヤー！が引き継がれる。これを、キヤーの法則と言うそうです。一方、家の中に蜘蛛なんかが出て、親は新聞紙を丸めて無言でペシッ！と引っ叩く。そうした環境で育ったなら、キヤー！ってな具合にはならない。うーん、たしかにそうかも知れませんね。というわけで、今シーズンも後者にて、親の姿勢を子どもに示し続けようと思います。(´_`)

株式会社 情熱空間
代表取締役 三木 克敏